

令和3年度 第1回 銚田市まち・ひと・しごと創生有識者会議 委員による地方創生推進交付金事業の評価結果

事業名		鹿行広域DMOプロジェクト			
事業の概要		<p>FIFAクラブワールドカップ2016で準優勝した鹿島アントラーズと連携した「スポーツ合宿」を柱としたスポーツツーリズムブランドや、農業が盛んな当地域の強みを活かしたグリーンツーリズムブランドを創出するため、鹿行地区版DMOを設立し、国内だけでなくインバウンド向けスポーツ合宿商品、鹿島神宮や水郷特有の観光資源を活用したインバウンド向けフォトウェディング商品及び豊富な農産物を活用した農業体験商品等を造成する。特に、合宿商品では今後増加が見込まれるムスリムに対応するものなどを含め、スポーツ施設や合宿所の増加を図り、ムスリム圏において「海外合宿は日本・鹿行へ」と言われるようプロモーションを推進していく。そのためには、国内外の地勢、政治、経済、旅行先傾向、嗜好等に精通する旅行業務取扱管理者及びマーケティング担当者が、造成した商品を国内のみならず、ムスリム圏をはじめとする海外市場に展開する。その結果、外貨(地域外からのお金)を稼ぐ仕組みが作られるとともに、新たな雇用の創出による地域の活性化が図られる。</p> <p>また、全国に先駆けた観光地域づくりの取組としては、前述のムスリム対応合宿所の増加のほか、国内で利用者が1千万人を超えるスマホアプリ事業者と連携し、DMO実施事業に対する予約体制を構築するとともに、域内市民の統一コミュニケーションツールの作成準備をしている。</p> <p>また、地域商社の要素として、地域資源を活用した土産物や特産品を開発し、マーケティングの手法を駆使して新規開拓を行い、商品の販売を促進していく。</p>			
事業の評価		実績値を踏まえた事業の今後について			
評価	評価に対する意見・理由	今後の方針	今後の方針を選んだ理由		
①取組事業がKPI達成に有効であった	13	①事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させるべきである(事業拡大)	6	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中でもっとネット販売などを進めてほしい。 ・5か年であれ、1年ごとの見直し改善の視点は必要である。 ・地域性が活かされている。 ・鹿行5市の連携とアントラーズの知名度を活かした更なる向上を期待する。 ・事業内容のなかに、もっと銚田市内の企業を絡めて地元企業の発展につなげてもらいたい。 ・アフターコロナの時代にどのようにしてツーリズム事業を進めていくのかを考える必要があると思います。 ・BBQやキャンプ等、屋外で楽しめるもの、関連事業者も増えている様ですので、協力して推進して欲しい。 	
		②特に見直しの必要がなく今後も事業を継続すべきである(事業継続)	8	<ul style="list-style-type: none"> ・まだアピールが足りないと思う。 ・事業の継続はもちろんであるが、地域内外を問わず、もっとPRは必要であると思う。 ・ツーリズム事業を今後も継続して鹿行の特産物、自然などを広く知ってもらうことが大切だと思います。 ・市の特徴を活かし、サッカーやサーフィン等のスポーツを活用したスポーツツーリズムを中心に事業継続を行っていただきたい。 ・当市のロケーションは素晴らしいと思います。海と霞ヶ浦・北浦の湖に囲まれており、また全国一の農業生産も多数ございます。こうした強みを線で結び5市が連携したプロジェクトが何かできれば良いと思います。 ・今年度においても、なかなか新型コロナウイルス感染症の収束がつかない中、現況では継続することが必要であると思う。 ・コロナが無ければもっと実施できたので、まずはこの内容を出来れば良いと思う。 ・その後もう少し増やし多くの人を銚田地区に来てもらいたいと思う人を増やしていければ。 ・コロナ禍の中で十分な効果が得ることが出来なかったため、継続して検証するべきだと思う。 	
②取組事業がKPI達成に有効とは言えなかった	2	③事業内容の見直し(改善)を行うべきである	2	<ul style="list-style-type: none"> ・withコロナafterコロナを意識し、現場にいかなくても体験できる内容とする。 ・間口を広げるよりも奥行を広げる策を増やす。(サッカーを観戦にくる人をターゲットとした策を増やす) ・ヘリコプターはいかがなものか。 	
		④事業実施を中止すべきである	0		
無回答	1	無回答	0		
有識者評価に対する事業担当者のコメント					
本市を含む鹿行5市が負担金を拠出し、「一般社団法人アントラーズホームタウンDMO」が各種事業を計画・実行している。引き続き、本市の強みを活かした体験型商品や特産品の開発等が計画・実行されるようDMO側へ強く要望していく。					

令和3年度 第1回 銚田市まち・ひと・しごと創生有識者会議 委員による地方創生推進交付金事業の評価結果

事業名		つながる茨城チャレンジフィールドプロジェクト			
事業の概要		【茨城県】 (1)「関係人口」の創出・深化・・・ローカル志向を持つ東京圏の人材を、地域や地域住民との多様な関わりを持ち地域づくりに貢献する「関係人口」として創出するとともに、多様な関わりの方の受け皿となる地域住民や企業等を県全体で見える化する。 (2) 持続的に「しごと」が生まれる仕組みの構築・・・「関係人口」が本県地域と関わりながら、地域の活性化や地域課題の解決に取り組むことにより、地域で携わる「しごと」が創出される仕組みを構築する。なお、特に人口減少が進んでいる県北地域においては、クリエイティブ人材に対するコミュニティの育成から「しごと」のマッチングまでを一体的に支援する。 上記の取組を持続可能なものとしていくため、民間の地域コーディネーター等を介した「ひと」と「ひと」、「ひと」と「しごと」のつながりが創出される仕組みを構築(中間支援プラットフォームの構築) 【連携市町】 県や中間支援プラットフォームによる東京圏から「関係人口」を呼び込む取組を推進するにあたり、その受け皿となる地域の住民や企業等、地域資源等の掘り起こし発掘や見える化に取り組むとともに、「関係人口」に対して地域と多様に関わる機会を提供する。また、市独自の創業支援施策や中間支援プラットフォームの事業と連携し、「関係人口」が本県内で「しごと」を創出し、定着することを支援する。			
事業の評価		実績値を踏まえた事業の今後について			
評価	評価に対する意見・理由	今後の方針	今後の方針を選んだ理由		
①取組事業がKPI達成に有効であった	13 <ul style="list-style-type: none"> 銚田市人口増加の為にぜひ取り組んでください。 市の未来を担う人材の発掘が出来たのが良かった。 事業を行ったことで見えてきた「課題や改善点」をさらに今年度に向けて活かしてほしいと思う。 【産学官連携事業】いろいろな可能性を求めながら事業を推進しようとしていると思われる。できるだけ早い段階で計画があり、地域・関係者へ繋げていく姿勢が大切であると思う。 【みらい人材育成事業】単に数値だけでなく支援にかかわる事業の価値は高いと思う。 関係人口を増加させる取り組みは時間がかかるものであり地道な活動が必要ですので今後も末永く継続してほしい。 オンライン教室でも十分成果を上げることが出来ている。 県内広域で事業に取り組むことで、各自自治体間で情報共有・共感による一体感の醸成と安心できる人材育成の方針・目標が良い。 令和2年度の実績値が出ていないので有効であったかの判断は出来ないが、ICTスキルは必須であると思うので効果はあると思う。 NECロケッツとの連携でオンラインのバレーボールは貴重な経験となった。 バレーのプロを呼んで技術を学ぶこと等はしても良いと思う。 【産学官連携】今後大企業との接点があり希望がある。 【みらい人材】今後の為には良いと思う。ただし金額多額では？ ニーズに合った事業計画だった 	①事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させるべきである(事業拡大)	8	<ul style="list-style-type: none"> 就業するには時間がかかるので、地道に行う事が大切。 コロナにより、オンラインで仕事ができることを証明したので地方の有利性を活かせば良いと思います。 企業との連携を重視していく点に発展性が感じられる。 農業法人などとのつながりを強化してもいいのではないかと。 東京圏からの距離も活かして、関係人口増加を図って欲しい。 各地域の特性を活かしつつ、地域間格差のない取組を一層増やしてほしい。 個人のスキルアップをしてきても、地元で産業がないと活かす事が出来ないし、人口の流出にもつながると思うので、産業の創出も進めていってほしいと思います。 マイナビ等大手事業者の持っているスキル、ビックデータのさらなる活用を検討ください。 	
②取組事業がKPI達成に有効とは言えなかった	3 <ul style="list-style-type: none"> 労働人口の減少は続いており、新規事業を起すににくい。 市外へ出る若者が多い。(大学・専門学校が近くにない) 首都圏まで、移動に時間がかかるためテレワークには不向き。(出勤日がつらい) コロナ禍の中での事業展開で非常に苦労されているのはわかるが、これらの事業が事業目的にあまり有効とは言えないと思う。 やっている事があまり理解できない。 	②特に見直しの必要がなく今後も事業を継続すべきである(事業継続)	5	<ul style="list-style-type: none"> 今後も産学官連携を深めて、市発展が望めるよう希望する。 みらい人材育成事業は継続して欲しいと思います。 「ICT教育」と「ICT活用」を銚田市の産業につなげていくことで、地域課題の解決や多様な地域コミュニティを強化し、地域愛を醸成して、未来につなげて欲しいです。 ITの発展により都会にいる必要がなくなり、田舎が見直されていますので、銚田市の強みをこれまで以上にアピールすることで関係人口増加を図っていきましょう。 ほこたの未来のためにどんどんやって欲しい。銚田が新しい分野が増えて良いのかなど。新しい銚田になるようになれば良いかと。 	
無回答	0	③事業内容の見直し(改善)を行うべきである	3	<ul style="list-style-type: none"> 農業以外のしごとを増やす。小学校跡の活用 コロナ禍の中、仕方のないことだがオンラインについては改善が必要と思う。(オンラインばかり目立つ) 事業内容に対して予算が多すぎるのでは。 利用者が少ないのでは、事業が予算に伴っていない。 	
無回答	0	④事業実施を中止すべきである	0		
無回答	0	無回答	0		
有識者評価に対する事業担当者のコメント					
インターネットを通じ様々な場所にいる人とつながることのできる現代において、関係人口の創出をしていくための1つの方法としてICTを活用していく事は必要不可欠である。その中でも特に、コロナ禍において急速に浸透したオンラインツールを用いた関係づくりは、感染状況が好転しない現状において重要な手法である。それらを活用して関係人口の創出ができる事業を模索していくとともに、有識者のご意見のとおり、引き続き「ICT教育」や「ICT活用」を進め、銚田市の産業に繋げていく。					

令和3年度 第1回 銚田市まち・ひと・しごと創生有識者会議 委員による地方創生推進交付金事業の評価結果

事業名	「農業と観光のハーモニー」DAPPE project		
事業の概要	<p>従来の行政の枠組みを超えた本市の特性を活かした「農業・農産物」をツールとした多様な観光推進事業を推進するため、その中心的な役割を担う一般社団法人(仮称)銚田市観光物産協会を設立し、市直売所のリニューアルに併せ、観光客が市内を観光する足掛かりとなる情報発信機能を持たせ、農業体験事業やイベント等、誘客につながる取り組みを進めていく。</p> <p>農業・農産物をツールとした観光コンテンツの創出、それらを活用した市内回遊・滞留の仕組みづくり、地域ブランドを活かした商品開発やその販路拡大を進めていく。</p> <p>また、戦略的な情報発信を展開することで、銚田市への観光入込客数の増加を目指す。実需者である観光客と農業生産者との交流の中で、ただ生産するのではなくマーケット・イン思考な農業をつくり、地域の「稼ぐ力」の向上とさらなる雇用の創出を目指していく。</p> <p>さらに、流行に敏感な都会の若者をターゲットとした交流事業を実施することで、地元住民には気づかない農産物の付加価値の付け方を模索するとともに、「稼げる農業」に興味のある都会の若者の移住等に繋げていく。</p> <p>更に、市内の他の事業者・他業界(直売所や飲食店組合等)と連携し、点の取組でなく、面の取組として、交流人口の増加や地域活性化の相乗効果を高めていく。</p> <p>加えて、都市部女性と農業者の交流事業やプロモーションを通じて、都市部女性の取り込みや交流人口拡大を行う。</p>		
事業の評価		実績値を踏まえた事業の今後について	
評価	評価に対する意見・理由	今後の方針	今後の方針を選んだ理由
①取組事業がKPI達成に有効であった	<p>15</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り組み事業を達成するためには有効ではあるがメニューが多すぎないか？ ・カミナリ登用は効果があった。 ・各事業とも有益な事業であったと思う。 ・多種多様な媒体を活用したPRは、銚田市の農産物を広く知ってもらうために、これからも行って欲しいと思います。 ・20～39歳の女性が少ないとは、流出が多いという事であり、それを止めるための施策は必要に感じる。 ・生まれ育った市で生活していきたいと思えるためには、何が課題なのか、本事業の視点の1つにしても良いと思う。 ・特に地域資源ブランド力向上事業やシティプロモーション事業は大きな効果があったのではないかと思います。 ・特に地域資源ブランド力向上事業においての首都圏広告等PR戦略が良かったと思う。(銚田市出身のタレント起用等) ・シティプロモーション事業においては「テーマ」ごとに動画が紹介され良かったと思う。 ・協会設立は良いこと。マスコミの活用PRはもっと積極的に行うべき。 ・動画もしっかりとしたもので、イメージアップに効果的だと思う。再生数が知りたかった。 ・意欲は感じるがコロナにより実施できていないのでは ・全国に誇れる資源(農産物・海・酒沼など)を、行政のみではなく、各方面の関係者一丸となって進められている。 ・既存施設等を有効に活用した事業展開が良い。 ・観光物産協会は立ち上がったばかりなのでこれからの活動に期待します。 ・農業以外の銚田の魅力伝えていくのは良いと思います。 ・多方面から銚田の知名度アップ、生産物のアピールを行っていることは良いと思う。 ・単年度ではなく、継続して行う事がブランドUPに有効であると思うので続けてほしい。 ・メロンスマイルは良い。 ・51号を通るとJA他がすごいお客さんです。平日にも多数の客が多い。ただメロンの期間が短いので三次産業もしないといけないでしょう。メロンの加工は難しいんですね。 ・銚田＝農業が定着している ・メロンをPRできている ・メロン以外の農産物もPRした方が良い 	<p>①事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させるべきである(事業拡大)</p>	<p>8</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4つの事業とも、将来の銚田の各産業、観光、そして人口増のための、人の移住に向かった事業であるため、今後ますます促進に向かっていてもらいたい。 ・ただ、4つの事業は似通った事業であると思うので、予算の関係もあるかと思うが、合体した事業としてもらいたい。 ・【地域資源ブランド力向上事業】産地標記が「茨城県産」が現状であることから、早く「銚田市産」になるよう打破して欲しい。 ・【シティプロモーション事業】継続して動画のリニューアル等を行ってほしい。 ・今後は関西圏へのPRも必要と思われる。 ・動画とポータルサイトをより多くの人に見てもらえるよう工夫して欲しい。 ・ドラマ「ドラゴン桜」のロケ地なども活用しても面白いと思う。 ・農産物の生産性の向上と、消費宣伝等PR拡大に比例する就農者や農業・地域産業関係に精通する人材を育成してほしい。 ・銚田の魅力をインターネット等を利用してPRをしているが、銚田を検索してもらうことが出来るような取り組みが必要だと思います。 ・宿泊施設の充実が銚田には必要なので、民泊やグランピング施設などを拡充してもらいたい。 ・銚田市にあるゴルフ場、海などもっとアピールしてほしい。 ・カミナリも良いが芸能人にも負けない位インパクトのある岸田市長の起用も良いのではないかと。 ・事業をどんどんやって欲しい。自分が都会の人だったら興味がある。興味がある事業ばかりです。 ・メロンのPRをしつつ、海・農業の資源を活用し移住者を増やしていければ良い
②取組事業がKPI達成に有効とは言えなかった	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・銚田市の認知度を上げたいのであれば、銚田＝農業を強く打ち出してもイメージがわからないのでは？ ・酒沼駅には観光客は行かない。 ・さんて旬菜館はわかりにくい。ハコモノを建てる場所を考え直す必要性を感じる。 	<p>②特に見直しの必要がなく今後も事業を継続すべきである(事業継続)</p>	<p>6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業予算はあるのでいかに効率的に活用できるか？ ・オンラインメロン狩りの固定化推進 ・さんて旬菜館の飲食コーナーは経営的に成り立つのか疑問符がつきます。トウモロコシ朝採りでもやった方が良いのでは？ ・農産物のブランド化もとても大事だと思いますが、より多くの消費者に銚田市の美味しいメロンやイチゴなどを購入して欲しいと思います。価格の設定なども誰でも購入できる金額にしてほしいです。 ・「Come on!ほこた」は銚田の魅力が伝わる動画でした。でも、実際に住んでみるとどうなのか、リアルな面も知らせられたらなお良いと思います。 ・各々の事業において、様々な活動が展開されている。今努力しているものの継続で良いと思われる。いかに認知度を高めていくかが大切である。 (住民である自分がこれらの取り組みについてよく知らないものがあった。市民みんながもっと関心を持ちたいと思いました。) ・農産物のブランド化については、メロンのPRは成功していると思いますが、その他農産物ではもうひと工夫必要だと思います。 ・養豚業もさかんな地域ですので豚肉のPRも強化したら良いと思います。 ・「なだろう」や「サングリーン」のような直売所を中心とした大型のドライブイン(道の駅のようなもの)のような、人が集まる場所を考えていくことも地方活性化につながるのではないかと思います。
無回答	0	③事業内容の見直し(改善)を行うべきである	2
無回答	0	④事業実施を中止すべきである	0
有識者評価に対する事業担当者コメント			
<p>本事業については、横断的に本市の基幹産業である農業の更なる発展のための多角化戦略を行っている。細分事業ごとにターゲットを設定することで、一体的な目的に向かって各事業が役目を果たすことが出来るよう計画的に取り組んでいる。</p> <p>計画において「市内事業者と連携し、点の取組でなく、面の取組として、交流人口の増加や地域活性化の相乗効果を高めていく」と記載しているとおり、引き続き両JAをはじめ、地域の関連する企業・機関と連携を図りながら本市のPRを実施していく。</p> <p>農産物をツールとした市のPRを図っていくために、有識者からも意見のあった「銚田市産」標記での農産物販売について、関係各方と調整を行い、現在メロンにて試験的に実施している。他産品でも同様の取り組みをとおし本市をPRできるよう、引き続き取り組んでいく。</p>			